

2013年3月7日

防衛大臣 小野寺五典 殿

日本共産党参議院議員 山下芳生

国会議員団近畿ブロック事務所

オスプレイ配備の撤回と無法で危険な訓練飛行の中止を
米国と政府に求める申し入れ

昨年、国民の強い反対を無視し配備された、米海兵隊の垂直離着陸輸送機MV-22オスプレイは、飛行ルート下にある自治体をはじめ、多くの自治体で配備と訓練に抗議し、中止を求める決議もあがっており、全国知事会も緊急決議を行っていた。また、ルート下にある自治体への説明も十分行われておらず、いっそう懸念と不安が広がっている。こうしたなか日本共産党国会議員団近畿ブロック事務所も、昨年11月19日に配備撤回と無法で危険な飛行訓練の中止を米国と政府に求める申し入れをおこなったところである。

今回、こともあろうに、3月6日から8日の間に3機のMV-22オスプレイが訓練飛行するその予定日の前日に米軍から情報提供があったとして当該の府県に通知があった。近畿においては、和歌山県をルートに含む「オレンジルート」でオスプレイが低空飛行訓練を予定し、夜間飛行訓練もする旨の通知である。

この突然の通知に、ルート下にある自治体からは強い不満と危惧の声があげられ、昨日から情報収集の対応をはかっているが、米軍機の訓練が、日本の航空法の制約を受けず、飛行計画も知らされないことから、予測もつかず不安が広がっている。また、「オレンジルート」の空域での「ドクターヘリ」の運行についても重大な影響を与えるものである。

日本の防衛とはなんの関係もない、米軍が海外で戦争するための訓練を、なぜ日本国民が甘受しなければならないのか。

政府においては、米軍のオスプレイ配備の撤回と無法で危険な飛行訓練の中止を米国に求めるよう強く要請するものである。

以上